

宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(15)

－ 2023度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV.
(15)

－ Class Reports and the Results of a Questionnaire Survey －

松 田 勇 一

MATSUDA Yuichi

概要

本稿では、宇都宮共和大学における2023年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した学生に対する意識調査の結果を示した。授業報告では、本科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育 基礎ゼミ 授業報告 意識調査

1 はじめに

本学では、2016年度より初年次教育科目として「基礎ゼミ」が開講され、松田（2017、2018、2019、2020、2021、2022、2023）ではその授業報告と意識調査の結果を示した。2020年度はコロナ禍により一部の授業をオンラインで行ったが、2021年度からは全ての授業が対面で行われるようになり基礎ゼミにおいても通常の講義形式に戻っている。2021年度から導入されたクロームブックは様々な講義において活用されており、基礎ゼミにおいてもグーグルクラスルームを通じて週間日誌と課題の提出を行っている。本稿では、2023年度「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2 授業概要

2023年度の基礎ゼミはシティライフ学部1年生の必修科目とし、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して5つのクラスを編成した。1クラスあたりの学生数は11～12名であり、各クラスに担当教員が1名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1 目的

2023年度の基礎ゼミの目的は、昨年度と同様である。

- (1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。
- (2) 2年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
- (3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
- (4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
- (7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。
- (8) クロームブックを活用し、課題を電子データとして提出することができる。
- (9) 学期末にパワーポイントを用いて、今後の研究について発表することができる。

2.2 授業の方法と内容

2023年度基礎ゼミは、受講者58名（日本人学生54名・留学生4名）を5クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は5クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、5人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや課題、提出物などを確認し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業は、初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いて行った。テキストを用いた授業は、5クラスに分かれて実施した。基本的には教科書の内容に沿って進めたが、教科書の途中で全てのゼミ合同での講義（アカデミックスキル①②③）や発表などを行った。2021年度からは1年生全員にクロームブックを配布し、学内のICT教育を推進しているが、2023年度においても基礎ゼミの最初にクロームブックについての説明会を合同で行った。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春 学 期	1	アカデミックスキル①クロームブックの使い方（5クラス合同／高丸教員）
	2	テキスト第1章「さあ、はじめよう」
	3	テキスト第2章「勉強のリズムを作ろう」
	4	テキスト第3章「大学で学ぶということ」
	6	アカデミックスキル②ノートテイキング（5クラス合同／松田教員）
	7	テキスト第4章「困ったことはありませんか」
	8	テキスト第5章「大学はワンダーランド」
	9	テキスト第6章「自分を守る、他人を守る」
	10	テキスト第7章「キャンパスツアー」
	11	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」①（5クラス合同）
	12	発表「キャンパス周辺の〇〇場所」②（5クラス合同）
	13	アカデミックスキル③レポートの書き方（5クラス合同／松田教員）

	14	テキスト第8章「生活プランをどう立てるか」
	15	消費者カレッジ（5クラス合同／学生委員会主催）
秋学期	16	キャンパスハラスメント防止啓発研修・クラス再編（5クラス合同）
	17	テキスト第9章「卒業したらどうするか」
	18	キャリアガイダンス（5クラス合同／就職委員会主催）
	19	テキスト第10章「生活と人生のデザイン」
	20	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」①（5クラス合同）
	21	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」②（5クラス合同）
	22	テキスト第11章「研究テーマを考える」
	23	大学祭ポスター展示（「夏休みの課題：私の〇〇場所」）
	24	テキスト第12章「研究を進める」
	25	テキスト第13章「研究報告をまとめる」
		テキスト第14章「プレゼンテーションとレポート」
	26	最終発表リハーサル・質疑応答（各クラス）
	27	最終発表「これからの研究したいこと」（5クラス合同・1人3分）
	28	最終発表「これからの研究したいこと」（5クラス合同・1人3分）
	29	最終発表「これからの研究したいこと」（5クラス合同・1人3分）
	30	卒業研究発表会聴講（4年生の卒業研究発表を聴講し評価する）

基礎ゼミでは、課題として「週間日誌」を2週間に1度提出させているが、2022年度からはGoogleフォームを利用し、記述式テキスト形式で「新たに学んだこと・気づいたこと」100字以上、「週間報告—この2週間で印象に残った出来事」200字以上、「作文」200字以上で提出させた。課題は提出期限を定めてGoogleクラスルームを通じて学生に通知した。なお、週間日誌の採点は各クラスの担当教員が行い、期日までに提出された場合は2点、遅れて提出した場合（締め切りから1週間以内）は1点、未提出の場合は0点とした。

また、2022年度からは週間日誌の電子データ化に加えて提出課題も一部電子データ化した。具体的には、春学期の発表「キャンパス周辺の〇〇場所」の写真データ、秋学期の「夏休みの課題：私の〇〇場所」の写真データ、最終発表「これから研究したいこと」のスライドデータである。これらの課題は、週間日誌と同様にGoogleクラスルームで指示を出した。なお、秋学期の大学祭ポスターは2022年度と同様に電子データではなく手書きとしたが、これは電子データでは表現が難しい装飾やアレンジを学生にもらうためであった。結果として、学生個々のアイデアが活かされたポスターが多く展示された。

2.3 成績評価

ポートフォリオ(週間日誌)40%、テキストのワークシート40%、発表20%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形(−欠席回数×3点)で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。

3 意識調査

3.1 調査概要

調査は、2023年度基礎ゼミの最終回(最終発表後)において実施した。調査した学生数は、日本人学生51名、留学生4名であった。2022年度までは、春学期、秋学期2回の調査を行っていたが、今回は秋学期1回のみである。なお、受講者数と回答者の違いは、欠席による未回答があるためである。また、2023年度も調査はグーグルフォームを利用し、回答は5段階評定法、及び自由回答法によった。なお、調査票は大学生活全般について、これからの勉強について、基礎ゼミについて、に分かれている。

3.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

3.2.1 大学生活全般について

大学生活全般に関する質問(①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生活に満足している ③大学生活は楽しい ④大学生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している

⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している)の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法(1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う)により回答を得た。

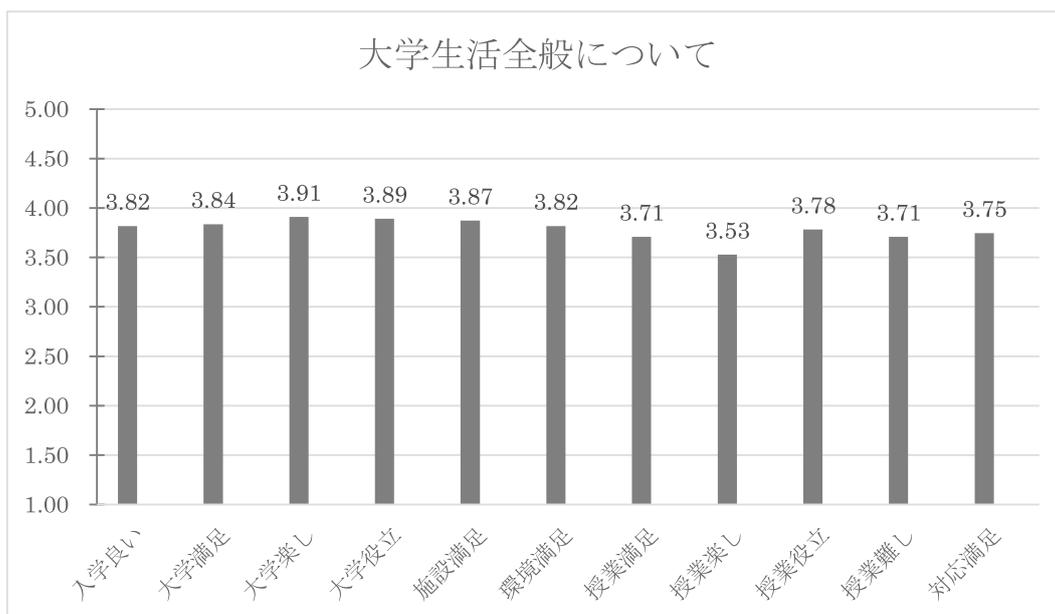


図 1

まず、4.0を超えている項目がなく、全体として厳しい評価に見える。しかし、この結果は例年見られるものであり、今回が特別だったわけではない。例年、春学期と秋学期に調査を行っているが、春学期よりも秋学期は数値が下がる特徴がある。今回の調査は秋学期のみであったが、例年の秋学期の調査と比較するとそれほど評価が低いわけではない。ただし、授業に対する満足度等は各教員が努力して向上させていく必要がある。

次に、大学生生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述】

- ・ 駐車場よこせマジで不満
- ・ 駐車場が欲しい
- ・ 学食にデザートが欲しい
- ・ 駐車場を作ってほしい
- ・ 風邪をひいた時公欠にならないのが少し不満点ではありますがそれ以外は特に不満はない
- ・ 学食の種類が少ない
- ・ 先輩との絡みが少ない
- ・ 学外のボランティアなどの活動の募集をメールでも知らせてほしいです。
- ・ 風邪で公欠にならないのが厳しいと思う。

以上のような意見が見られたが、公欠についての意見は例年にはないものである。コロナ禍により、「感染者」「濃厚接触者」となると公欠が認められるため、単なる風邪も公欠になると考える学生が増えているのかもしれない。インフルエンザやコロナ等の感

感染症と単なる風邪や発熱は別物であることをオリエンテーションなどでしっかりとアナウンスする必要があるだろう。また、駐車場は毎年見られる意見だが、本学部が街中にキャンパスを構えている以上、学生のための駐車場を提供することはないだろう。

3.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していききたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい）を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

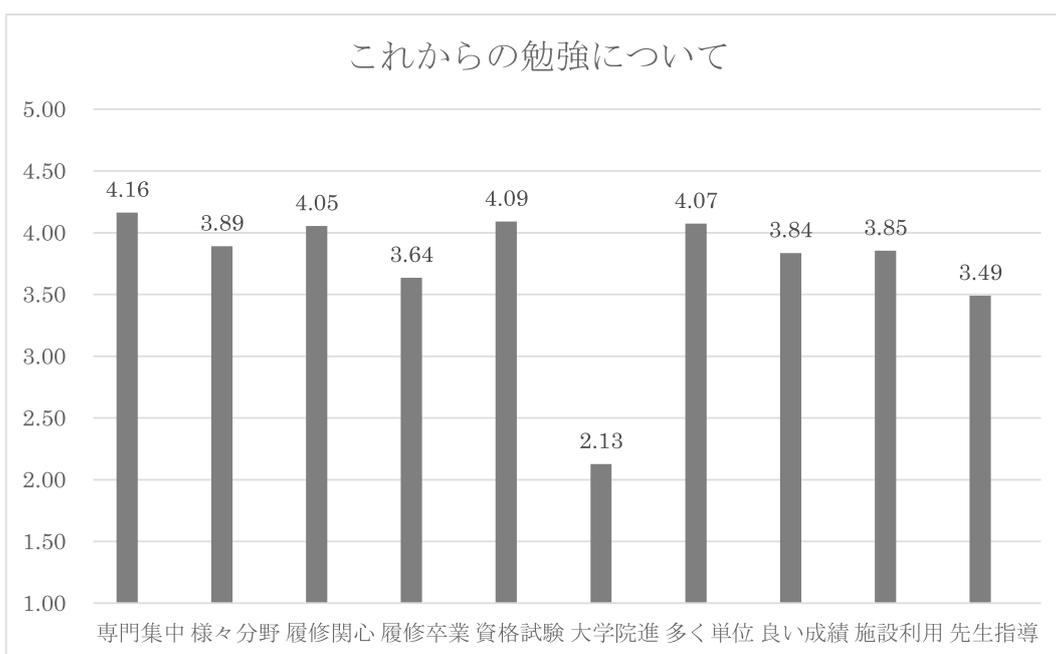


図2

まず、全体の結果を見ると、質問1、3、5、7、が4.0を超え、例年と同様の結果となった。専門分野や自分の興味関心がある分野を集中して勉強したいという学生が多いことが分かる。大学院進学については、ほとんどの学生がそれを目的としていないことが分かる。

次に、これからの勉強について自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述】

- ・これからちゃんと講義を受けてもわからない時があるため心配ですが、先生にも聞こうと思います。
- ・社会に出て必要な科目はあるのか
- ・スカラシップを取るための成績を細かく知りたい。スカラシップを取得したい
- ・自分のサボり癖が心配
- ・2年次のゼミがどんなものになるか心配
- ・将来に役に立つ勉強
- ・勉強していることは将来の仕事に役に立てるのか心配している。

以上のような回答が得られたが、役に立つ科目、役に立つ勉強といった実学を学びたいという気持ちが見える。大学の講義では、体系的な理論学習も大切であるということを学生に説明していく必要があるだろう。

3.2.3 基礎ゼミについて

基礎ゼミについては、基礎ゼミ全般について10の質問（①基礎ゼミは楽しかった ②基礎ゼミは役に立った ③基礎ゼミを通じて友人ができた ④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった ⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった ⑥クロームブックで課題を作成することは良かった ⑦課題（新たに学んだこと・気づいたこと）は良かった ⑧課題（週間報告）は良かった ⑨課題（作文）は良かった ⑩対面での授業は良かった）を設置した。

作文テーマについては、「自己紹介」、「高校時代の一番の思い出」、「私の親友」、「私の名前の由来」、「私の自慢」、「私の趣味」、「今までで一番ラッキーだったこと」、「春学期の総括」、「私の春学期と夏休み」、「私の長所と短所」、「私の宝物」、「私の好きな本」、「私が一番感動した映画」、「もし生まれ変わったら」、「将来の夢」、「1年間の総括」である。

各回の授業については、基礎ゼミの教科書『プレステップ基礎ゼミ』（第1章～第14章）と合同講義（春学期「クロームブックの使い方」、「ノートテイキング」、「キャンパス周辺ツアー」、「キャンパス周辺の発表をしたこと」、「キャンパス周辺の発表を聞いたこと」、「レポートの書き方」、「クラス再編について」、「夏休み課題発表」、「大学祭での展示」、「最終発表リハーサル」、「最終発表」）に関する質問である。

以上の設問回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

【基礎ゼミ全般について】

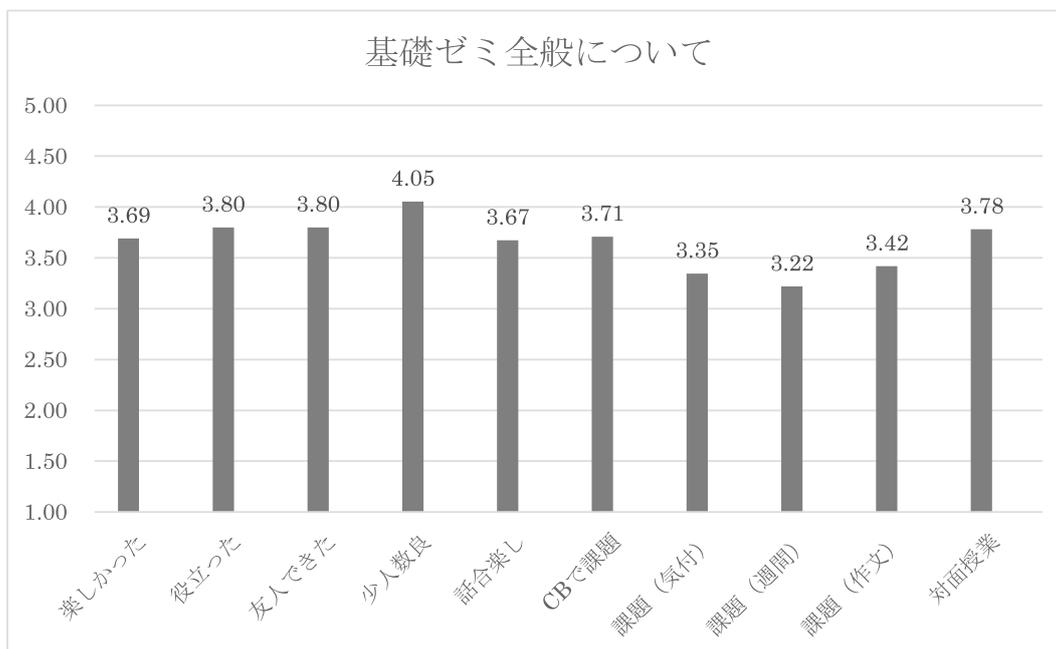


図3

まず、全体で4.0を超えたものは、「少人数制の授業」であった。この結果は例年通りであり、本学の長である少人数制教育が学生に受け入れられたものと捉えられる。また、「課題」については3点台前半となっており、こちらも例年通りの結果となった。課題は紙ではなくクロームブックでの作成としたが、アナログからデジタルに変化しても課題に対する評価というものはあまり変化がないのかもしれない。

次に、基礎ゼミ全般について自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述】

- ・先生によって言っている情報が違うことがあったのでできる限り同じことを言ってほしい
- ・週間日誌の1、2が同じ内容で辛い
- ・課題の説明がゼミの先生ごとに内容の誤差があり、他ゼミの友人と課題について話し合っていて頭を抱える場面があった。
- ・基礎ゼミ学んでよかったですと思いました
- ・全てのゼミが同じことをしているはずなのに、統一性が少し欠けているように感じた。
- ・自分は日本語を徹底的に理解していませんが、課題があるときはわからないことがあっても、聞く勇気がなかった。理由はどうか、わからないのです。

以上のような回答が見られたが、「教員によって説明が異なる」という点は今後改めなくてはならないことである。毎回の授業の前には、5人の教員が打ち合わせを行い、授業内容や提示する課題などについて確認しているのだが、学生からこのような意見が出ている以上、改善しなければならない。今後はさらに入念に打ち合わせを行う必要があるだろう。

【作文テーマについて】

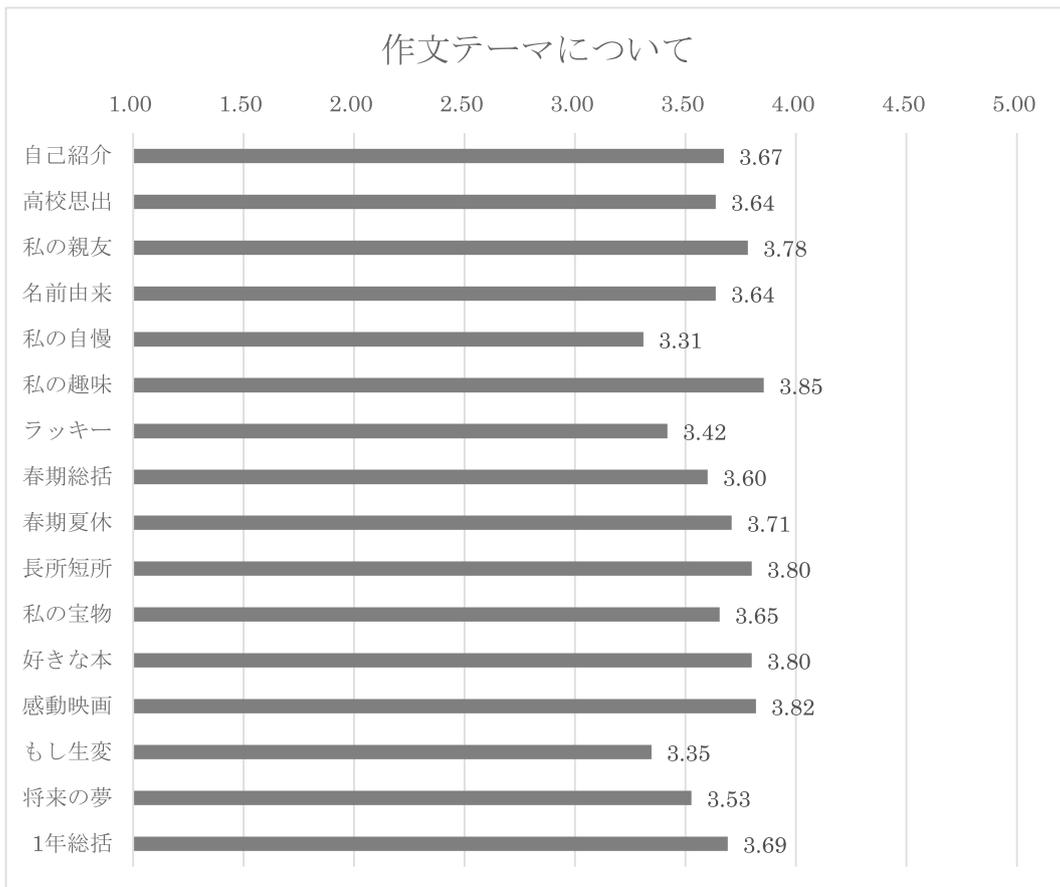


図4

作文のテーマについて、評価が高かったものが「私の趣味」3.85、「感動した映画」3.82、「私の長所と短所」3.80、「私の好きな本」3.80、評価が低かったものは、「私の自慢」3.31、「もし生まれ変わったら」3.35、「今までで一番ラッキーだったこと」3.42、であった。例年の結果と比較すると、「私の趣味」は例年通り高く、「今までで一番ラッキーだったこと」は例年通り低かった。「今までで一番ラッキーだったこと」は、来年度以降、変更しても良いかもしれない。

次に、作文のテーマとして取り上げてほしいものについて自由回答してもらった結果を示す。

【自由記述】

- ・Freeテーマ
- ・懂れている人

【教科書と各回の授業について】

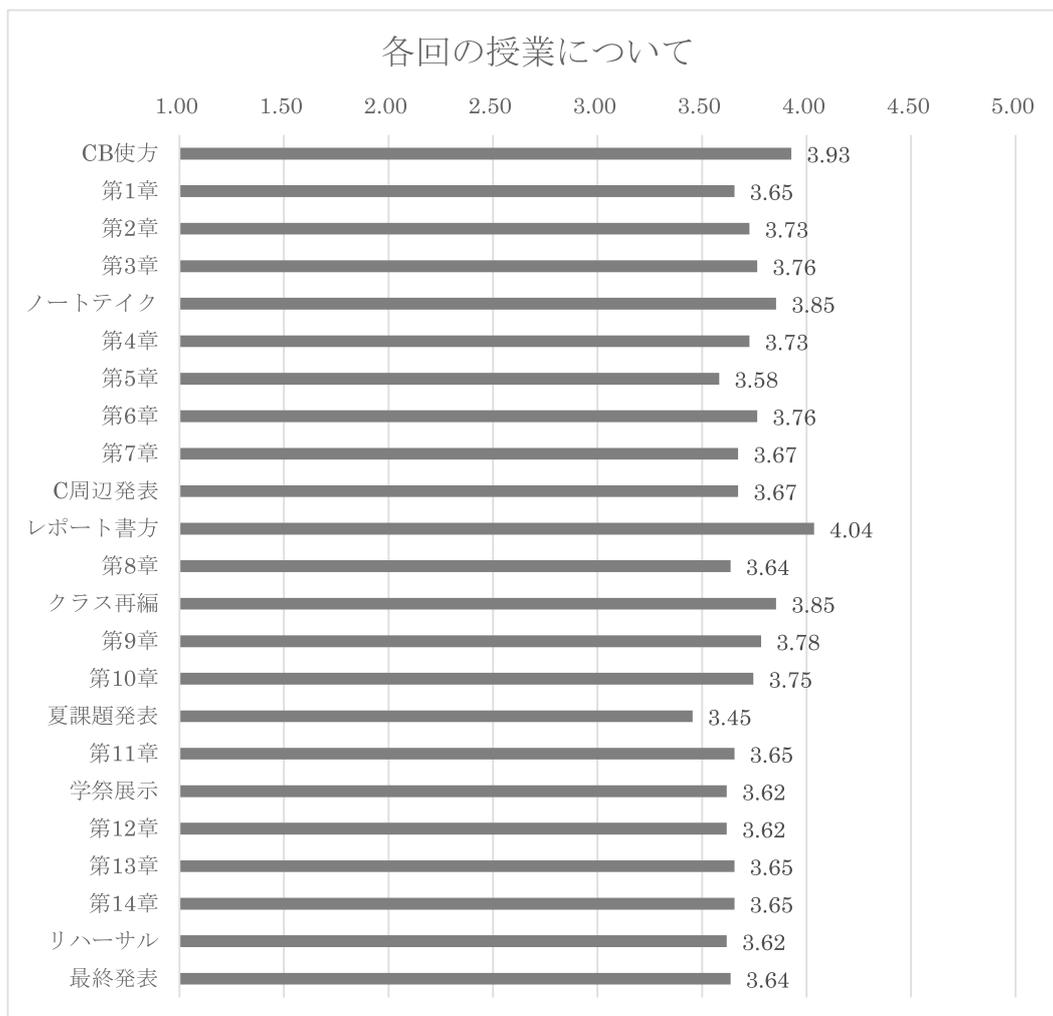


図5

各回の授業について4.0以上となったのは、「レポートの書き方」のみであった。レポート課題が出される時期に合わせて講義を行ったため、学生たちには役立つ感がより強くなったのかもしれない。また、「クロームブックの使い方」3.93、「ノートテイキング」3.85も比較的评价が高かった。一方、最も低かったのが「夏休みの課題発表」3.45であった。例年と比較してもこの数値は低かった。今年度だけ課題を変えたわけではないので、何故評価が低くなってしまったのか、来年度以降と比較検討していきたい。

各回の授業についての自由回答は、以下のものがあつた。

【自由記述】

- ・基礎ゼミの講義は普通に楽しかったと思う
- ・教科書を買っても教科書を使うことがない授業がある

「教科書を使うことがない」というのは基礎ゼミ以外の授業だと思われるが、教科書を学生に購入させているのであれば使うのは当然であり、もし使わないものを教科書として指定しているのであれば即時見直す必要がある。

4 まとめと今後の課題

2023度は、コロナが季節性インフルエンザ同様の「第5類」に引き下げられ、特別な感染症対策がなく授業が行われた。そのため、マスクを着用する学生も減ったが、未だにマスクを着用している学生もおり、学生の顔が見えない状況というのは少なからず残っている。そうした中、学生の意識がどのように変化しているのかを考察するのは重要なことだと思われるが、コロナ禍が日常になった学生たちの意識は大きく変化していないことが分かった。

今後も、本学の基礎ゼミでは少人数でのグループワークを通じた仲間づくりや意見交換などを推進し、学生たちが生き生きと学生生活を送れる基盤づくりを目指していきたい。

【参考文献】

- 川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂
- 松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(8)－平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第18号
- 松田勇一（2018）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(9)－平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第19号
- 松田勇一（2019）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(10)－平成30年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第20号
- 松田勇一（2020）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(11)－2019年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第21号
- 松田勇一（2021）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(12)－2020年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第22号
- 松田勇一（2022）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(13)－2021年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第23号
- 松田勇一（2023）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(14)－2022年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第24号

謝辞:2023年度の基礎ゼミでは、本学の和田佐英子教授、大石和博教授、薄井浩信准教授、永井紹裕専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。